

アシナトランジット株式会社 様

内部監査報告書



平成29年2月9日



独立行政法人自動車事故対策機構
広島主管支所

目 次

I. 年間内部監査実施計画表（平成28年度）	・ ・	P 1
II. 重点監査項目計画書	・ ・ ・ ・ ・	P 3
III. 内部監査員指名書	・ ・ ・ ・ ・	P 5
IV. 内部監査スケジュール	・ ・ ・ ・ ・	P 7
V. 内部監査チェックリスト	・ ・ ・ ・ ・	P 9
VI. 監査報告書	・ ・ ・ ・ ・	P 16

I . 年間内部監査実施計画表（平成28年度）

年 間 内 部 監 査 実 施 計 画 表

番号	年度 被監査部署 月	平成28年度（平成28事業年度）												
		2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	
1	代表取締役社長													○
2	安全統括管理者													○
3														
4														
5														
6														
7														

承認	確認	作成
平成29年1月14日	平成29年1月14日	平成29年1月13日
代表取締役社長	安全統括管理者	監査チーム

II. 重点監査項目計画書

重点監査項目計画書

部署名	平成28年度（平成28事業年度）重点監査項目
代表取締役社長	安全管理規程に基づき、安全管理体制が適切に構築・運用されているかを確認する。
安全統括管理者	安全管理規程に基づき、安全管理体制が適切に構築・運用されているかを確認する。

承認	確認	作成
平成29年1月14日	平成29年1月14日	平成29年1月13日
代表取締役社長	安全統括管理者	監査チーム

Ⅲ. 内部監査員指名書

内部監査員指名書

下記内部監査について、監査員として指名する。

記

被 監 査 部 署 : 代表取締役社長・安全統括管理者

監 査 対 象 業 務 : 安全管理規程に基づく運輸安全マネジメントに関する
事項全般

監 査 予 定 時 期 : 平成29年1月

監 査 チ ー ム : ① 監査リーダー
独立行政法人自動車事故対策機構 広島主管支所
田 邊 真 久
② 監 査 員
独立行政法人自動車事故対策機構 広島主管支所
末 田 智 久
③ 監 査 員
アシナトランジット株式会社 総務部次長
宮 口 充 晴

平成29年1月14日

氏 名 : 山 口 卓 治

(安全統括管理者)

IV. 内部監査スケジュール

内部監査スケジュール

被監査部署：代表取締役社長・安全統括管理者

監査目的： アシナトランジット株式会社における安全管理規程第15条（輸送の安全に関する内部監査）に基づく内部監査の実施により、安全管理体制が適切に運用されているかを検証し、経営トップがマネジメントレビューを行うための必要な情報を提供する。

重点監査事項： 安全管理規程に基づき、安全管理体制が適切に構築・運用されているかを確認する。

監査範囲：代表取締役社長・安全統括管理者

監査日時：平成29年1月26日（木） 13:00～16:00

監査準備：監査当日は、実施会場の準備をお願いします。

監査チーム：監査リーダー NASVA 田邊真久

監査員 NASVA 末田智久

監査員 アシナトランジット 宮口充晴

その他の：

監 査 時 間 表		
平成 二十九年 一月二十六日 (木)	13:00 ~ 13:10	オープニングミーティング 立会者：宮口代表取締役社長・山口代表取締役専務 監査チーム：NASVA田邊真久・NASVA末田智久 アシナトランジット宮口充晴
	13:10 ~ 14:00	宮口代表取締役社長（経営トップ）インタビュー 監査チーム：NASVA田邊真久・NASVA末田智久 アシナトランジット宮口充晴
	14:10 ~ 15:00	山口代表取締役専務（安全統括管理者）インタビュー 監査チーム：NASVA田邊真久・NASVA末田智久 アシナトランジット宮口充晴
	15:00 ~ 16:00	文書・記録等の確認

作 成
平成29年1月13日
監査リーダー

V. 内部監査チェックリスト

内部監査チェックリスト

監査年月日	平成29年1月26日	監査番号	2016-01
-------	------------	------	---------

評定の記号=○：適合 △：一部不具合 ×：不具合等

項目	チェック内容	監査所見（客観的事実・他）	評定
経営トップの責務	<p>1 経営トップ自らの関係法令等遵守や安全最優先の原則の社内周知の状況如何。</p> <p>2 経営トップの安全方針策定に当たったの関与・指示の状況如何。</p> <p>3 経営トップの安全重点施策策定に当たったの関与・指示の状況如何。</p> <p>4 経営トップの重大事故等への対応体制の整備・強化に当たったの関与・指示の状況如何。</p> <p>5 経営トップの安全に関する組織整備に当たったの関与・指示の状況如何。</p> <p>6 経営トップの安全に関する投資計画・実施に当たったの関与・指示の状況如何。</p> <p>7 経営トップの会社全体の安全管理体制の見直し（マネジメントレビュー）に当たったの関与・指示の状況如何。</p>	<p>経営トップである宮口代表取締役社長は、「安全第一が事業の根幹である。安全管理無くして事業経営は無い。」との考えのもと、以下の取組みを通じ、輸送の安全の確保に積極的に関与していることが確認できました。</p> <p>① 関係法令等の遵守と安全最優先の原則については、点呼やミーティング時における積極的な声掛け、掲示等により社内に向けて周知している。また、法令等の改正に適切に対応するよう留意し、法令を遵守することが自分の責任であるとの認識の下、事業経営を行っている。</p> <p>② 輸送の安全に関する基本方針については、自身の安全に対する思いが入ったものを作成し、会議の場において周知し、また、経営トップから乗務に直接話をする機会を取る等、積極的な周知を行っている。</p> <p>③ 輸送の安全に関する目標・輸送の安全のために講じた措置及び講じようとする措置については、取組みを繰り返し行い、継続することが事故削減に繋がるとの認識を持ち、取組みを実施している。</p> <p>④ 輸送の安全の確保のための投資については、輸送の安全の確保のためには積極的な投資をするべきとの考えに基づき、『ふらつき防止装置』や『常時録画型のドライブレコーダー』の導入を検討している。</p> <p>⑤ 現場における安全に関する声の把握については、日頃から乗務員の待機中や自身の添乗時にコミュニケーションを取ることを心掛け、出された意見に対し、経営トップ自ら対応することもある。</p> <p>⑥ 安全マネジメント体制の振り返りについては、内部監査の結果を基に行うこととしており、昨年度は内部監査の指摘を受け、『無事故対策委員会』を開催している。</p> <p>また、事故状況に不明な部分があった場合は、自ら事故現場に向いて検証を行ったり、安全統括管理者から救急救命訓練実施の意見が出されると、実施に向けて消防署に相談するなど、経営トップが安全に関</p>	○

		する取組みに主体的に関与していることも確認できました。	
安全方針	<p>1 安全方針の策定の手順如何。</p> <p>2 安全方針の社内周知の方法・実施状況如何。</p> <p>3 安全方針の社員の理解度・定着度・実践状況を把握・検証する方法とその実施状況如何。</p> <p>4 安全方針の見直しの方法・実施状況如何。</p>	<p>安全方針については、社内に掲示するとともに、点呼や各種ミーティングでの周知を行っている。また、経営トップ自らが、添乗時に乗務員に聞き取りを行ない確認するとともに、運行管理者にも確認している。</p>	○
安全重点施策	<p>1 安全重点施策の策定の手順如何。</p> <p>2 安全重点施策の社内周知の方法・実施状況如何。</p> <p>3 安全重点施策の進捗状況・達成状況を把握・検証する方法とその実施状況如何。</p> <p>4 安全重点施策の見直しの方法とその実施状況如何。</p> <p>5 安全重点施策の見直しに当たって考慮している情報如何。</p>	<p>【輸送の安全に関する目標及び達成状況】</p> <p>① 重大事故「ゼロ」の継続 重大事故は未発生<<目標達成>></p> <p>② 交差点事故を半減 今年度は3件発生（前年比半減）<<目標達成>></p> <p>③ 後退時の事故を半減 今年度は28件発生（前年比133%）</p> <p>④ 車庫内での自損事故を撲滅 今年度は5件発生（前年比100%）</p> <p>⑤ シートベルト未着用による車内事故「ゼロ」 シートベルト未着用による車内事故は未発生<<目標達成>></p> <p>なお、輸送の安全に関する目標については、バス事業、タクシー事業で達成状況に差があるため、次年度よりそれぞれの事業毎に、目標を策定する計画である。</p> <p>【輸送の安全のために講じた措置及び講じようとする措置】</p> <p>① 各種会議体での輸送の安全に関する取組み時間等の設定 職制主任会議や係別ミーティングといった各種会議体において、輸送の安全に関する取組みについて議論する時間を取っている。</p> <p>② 無事故対策委員会の設置 昨年度の指摘事項であった『無事故対策委員会』の設置については、規程を作成（バス事業のみ）し、職制主任会議の場において、事業ごとに開催している。委員会では事故事例の分析、対策の策定を行っている。</p> <p>③ 内部監査の実施 内部監査を行い、安全管理体制全般の適合性の確認を行った。</p>	○
安全統括管理者の責務	<p>1 安全統括管理者の輸送の安全に対する考え・方針如何。</p> <p>2 安全統括管理者の会社全体の輸送の安全に関する現状課題と当該課題に対する対応状況如何。</p> <p>3 安全統括管理者の安全重点施策その他安全の取組みに対する関与・指示の状況如何。</p> <p>4 安全統括管理者の社内の輸送の安全に関する課題等の情報の収集・把握の状況とそれら情報の経営</p>	<p>安全統括管理者である山口代表取締役専務においては、宮口社長と輸送の安全に対する考えを同一にし、この考えや安全方針を如何に全社員に徹底するかを課題と捉え、同業他社へ視察に赴く等し、様々な方策を思慮し、安全統括管理者としての業務を遂行している。</p> <p>今年度から新たに導入した施策として、『運輸安全管理個人目標』を全乗務員に設定させ、係毎に主任が管理し、毎月1度実施状況を把握する取組み</p>	○

	<p>トップへの報告・意見具申の状況如何。</p> <p>5 安全統括管理者自らの関係法令等遵守や安全最優先の原則の社内周知の状況如何。</p>	<p>を開始している。</p> <p>また、輸送の安全に関わる問題点については、機会ある毎に経営トップに報告し、また、各種訓練の実施にあたっては、安全統括管理者自ら実施に関与する等、輸送の安全性向上のため、中心となって積極的に取り組みを行っている。</p>	
要員の責任・権限	<p>1 輸送の安全に関する要員の責務・権限を何に明記しているか。</p> <p>2 輸送の安全に関する要員の責務・権限の社内周知の状況如何。</p>	<p>輸送の安全に関する要員の責務・権限については、安全管理規程に規定している。</p> <p>運行管理者がオペレーターを兼務せざるを得ない現状を見直すため、今後予定する配車システムの更新時に、運行管理者とオペレーターの役割を区分することを検討している。</p>	○
情報伝達・コミュニケーションの確保	<p>1 経営管理部門から現場への情報伝達の方法とその実施状況如何。</p> <p>2 現場の課題等を経営管理部門に報告・上申する方法とその実施状況如何。</p> <p>3 社内の縦断的・横断的な輸送の安全の確保に関する必要な情報共有の方法とその実施状況如何。</p> <p>4 報告・上申を受けた現場の課題等に対する対応措置の検討・実施の方法とその実施状況如何。</p> <p>5 上記4の対応措置の効果の検証・見直しの方法とその実施状況如何。</p> <p>6 利用者に対する安全啓発活動等の実施状況如何。</p> <p>7 輸送の安全に関する社内イントラの整備・運用の状況如何。</p> <p>8 目安箱等の整備・運用の状況如何。</p> <p>9 過去1年、輸送の安全に関する情報伝達・コミュニケーションの方法等の見直し・改善の状況如何。</p> <p>10 現時点における輸送の安全に関する情報伝達・コミュニケーションの課題等如何。</p> <p>11 (上記10の課題等があれば)当該課題等に対する対応状況如何。</p>	<p>【現場における安全に関する声の把握】</p> <p>各種会議・ミーティングや個別面談において現場の声の把握に努めている。報告のあった課題に対しては、関係機関に働きかけを行い改善した例がある。</p> <p>【利用者に対する安全啓発活動】</p> <p>年間を通じて、事故の抑制とサービスの向上を目的とした各種キャンペーンを行うとともに、お客様の安全な輸送をPRするため、ご乗車されたお客様に対して、運転ぶりやサービスに関するアンケートはがきを配付している。いただいたご意見のうちクレームについては、個別に指導を実施している。</p>	○
事故、ヒヤリ・ハット情報等の収集及び活用	<p>【事故・トラブル情報】</p> <p>1 事故・トラブル情報の報告・収集の手順とその運用状況如何。</p> <p>2 重要な事故・トラブル情報の経営トップ及び安全統括管理者への報告状況如何。</p> <p>3 収集した事故・トラブル情報の分類・整理の方法とその実施状況如何。</p> <p>4 重要な事故・トラブル情報の根本的な原因の多角的分析の方法とその実施状況如何。</p> <p>5 収集した事故・トラブル情報の再発防止策の検討・実施の方法とその実施状況如何。</p> <p>6 究明した事故原因や実施した再発防止策等の社内周知の方法とその実施状況如何。</p> <p>7 上記5で実施した再発防止策の効果の検証・見直しの方法とその実施状況如何。</p> <p>【ヒヤリ・ハット情報】</p> <p>1 ヒヤリ・ハット情報の報告・収集の手順とその運用状況如何。</p>	<p>【事故情報の活用状況】</p> <p>発生した事故については、職制主任会議に設置した『無事故対策委員会』において分析を行っている。また、事故情報は、係別ミーティングで各乗務員に展開を行い、各係で再発防止策を討議している。</p> <p>点呼でも注意喚起を行っているが、これら取組みの効果把握には至っていない。</p> <p>【ヒヤリ・ハット情報の活用状況】</p> <p>随時ヒヤリ・ハット情報を提出できるよう、報告書様式を作成し、作成した報告書を運転者に携行させている。しかしながら、提出数が少ないため、会議の中でヒヤリ・ハット情報をに収集したこともあったが、継続的な収集には繋がっていない。</p> <p>提出のあったヒヤリ・ハット情報やミーティングでの話し合いにより明らかとなった危険個所については、危険個所マップ作成のため、現在写真撮影が終わった段階である。</p>	

	<p>2 必要に応じ、重要なヒヤリ・ハット情報の経営トップ及び安全統括管理者への報告状況如何。</p> <p>3 収集したヒヤリ・ハット情報の分類・整理の方法とその実施状況如何。</p> <p>4 重要なヒヤリ・ハット情報の根本的な原因の多角的分析の方法とその実施状況如何。</p> <p>5 収集したヒヤリ・ハット情報の事故予防策の検討・実施の方法とその実施状況如何。</p> <p>6 収集したヒヤリ・ハット情報、究明した原因や実施した事故予防策等の社内周知の方法とその実施状況如何。</p> <p>7 上記5で実施した事故予防策の効果の検証・見直しの方法とその実施状況如何。</p> <p>【リスク管理全般】</p> <p>1 社員に対するリスク管理に係る教育・訓練の実施などリスク管理を進める上での業務環境整備の実施状況如何。</p> <p>2 事故、ヒヤリ・ハット情報等の収集及び活用の取組みに係る現状の課題等如何。</p> <p>3 (上記2の課題等があれば)当該課題等に対する対応状況如何。</p>		△
重大事故等への対応	<p>1 全社的に対応すべき重大事故等の対応の手順如何。</p> <p>2 上記1の手順の社内周知の方法とその実施状況如何。</p> <p>3 全社的に対応すべき重大事故等を想定した対応訓練の実施状況如何。</p> <p>4 上記訓練実施後、反省点等の把握・検証の方法とその実施状況如何。</p> <p>5 上記反省点等を踏まえ、対応手順の見直し・事後の同種訓練への反映の方法とその実施状況如何。</p> <p>6 実際に事故が発生した場合、実際に事故対応を行った際の反省点等の把握・検証の方法とその実施状況如何。</p> <p>7 実際に事故が発生した場合、上記反省点等を踏まえ、対応手順の見直しの方法とその実施状況如何。</p> <p>8 事故速報体制の整備状況如何。</p> <p>9 重大事故発生時の事故原因・再発防止策の社内周知の方法如何。</p>	<p>重大事故等発生時の対応については、安全管理規程第13条に規定している。</p> <p>また、重大事故等を想定した避難誘導訓練については、現在実施に向けて計画中である。</p>	○
関係法令等の遵守の確保	<p>1 関係法令等遵守、社内周知に向けた取組状況如何。</p> <p>2 社員の関係法令等遵守の実践状況の把握・検証の方法とその実施状況如何。</p>	<p>昨年輕井沢スキーバス転落事故を受けて、貸切事業においては大幅な法令等の改正があった。このため、経営トップ自らが、バス係会議にて改正内容の周知を行なった。</p> <p>周知の内容については、経営トップがバスに添乗する際に、乗務員に対面で確認を行っている。</p>	○
安全管理体制を構築・改善するために必要な教育・訓練等	<p>【コンセプト教育】</p> <p>1 経営トップ、安全統括管理者、経営管理部門安全管理担当要員に対する運輸安全マネジメント制度の理解を深めるための定期的な取組計画とその実施状況如何。</p> <p>2 上記取組みの効果の把握・検証、取組手法等の見</p>	<p>【コンセプト教育】</p> <p><経営管理部門> NASVAの安全マネジメントセミナーを平成27年度受講済みである。</p> <p><現業実施部門> NASVAの安全マネジメントセミナーを今年度3名受</p>	

	<p>直しの方法とその実施状況如何。</p> <p>【技能要員教育】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 技能要員に対する技能の習得・維持に必要な教育・訓練の計画とその実施状況如何。 2 上記教育・訓練の効果の把握・検証の方法とその実施状況如何。 3 上記効果の把握・検証を踏まえた、上記教育・訓練の実施方法、プログラム等の見直しの方法とその実施状況如何。 <p>【事故体験共有の取組み】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 事故体験共有の取組計画とその実施状況如何。 2 上記取組みの効果の把握・検証、取組手法等の見直しの方法とその実施状況如何。 	<p>講しており、今後も順次受講予定である。まだ受講をはじめた段階であり、効果の把握には至っていない。</p>	<p>△</p>
<p>内部監査</p>	<p>【内部監査】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 内部監査の手順の策定状況如何。 2 内部監査の計画方法とその実施状況如何。 3 経営陣による内部監査実施に向けた支援の状況如何。 4 内部監査の実施の人員体制如何。 5 経営トップ及び安全統括管理者を含む経営管理部門に対する内部監査の実施状況如何。 6 今年度の監査重点項目如何。 7 内部監査の指摘事項に対するフォローアップの状況如何。 8 内部監査結果の経営トップ及び安全統括管理者への報告の方法とその実施状況如何。 9 内部監査要員の力量、監査の有効性の検証の方法とその実施状況如何。 10 上記検証の結果を踏まえ、内部監査の手順等の見直しの方法と実施状況如何。 11 現状の内部監査に関する課題等如何。 12 (上記11の課題等があれば)当該課題等に対する対応状況如何。 <p>【内部監査要員の教育】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 内部監査要員に対する監査に必要な教育・訓練の計画とその実施状況如何。 2 上記教育・訓練の効果の把握・検証の方法とその実施状況如何。 3 上記効果の把握・検証を踏まえた、上記教育・訓練の実施方法、プログラム等の見直しの方法とその実施状況如何。 	<p>内部監査について、社内での体制が整うまでの間、独立行政法人自動車事故対策機構へ委託している。</p> <p>今年度の内部監査にあたっては、社内の内部監査要員も内部監査員として、自動車事故対策機構と合同で内部監査を実施し、社内でする体制を構築しているところである。</p> <p>なお、昨年度の内部監査の指摘事項である『無事故対策委員会』の開催については、バス、タクシーそれぞれ職制主任会議の場において時間をとり、事故の再発防止策を話し合っている。</p>	<p>○</p>
<p>マネジメントレビューと継続的改善</p>	<p>【マネジメントレビュー】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 マネジメントレビューの実施体制、手順、計画の方法如何。 2 マネジメントレビューの実施状況如何。 (どのような情報を収集し、総括し、どのようなことを決定しているか。) 3 マネジメントレビューの実施体制、手順の検証・見直しの方法とその実施状況如何。 <p>【継続的改善】</p>	<p>【マネジメントレビュー】</p> <p>前年の内部監査の結果を受け、不具合と指摘を受けた部分の是正を行っている。また、安全重点施策の達成状況を受け、次年度の目標の立て方をバス事業・タクシー事業の事業ごとに別々の目標を策定することを検討している。</p> <p>【継続的改善】</p>	<p>○</p>

	<p>1 日々の輸送の安全に関する課題等の継続的改善（是正措置・予防措置）の手順如何。</p> <p>2 上記手順による是正措置・予防措置の実施状況如何。</p> <p>3 実施した是正措置・予防措置の効果の検証・見直しの方法とその実施状況如何。</p>	<p>日々の業務の中で乗務員等から上申や報告のあった意見については、その都度改善するよう取り組んでいる。とある交差点で停止線の位置が変わったためバスが曲がる際に支障が生じるようになったという報告があった際は、所轄署に要望し停止線を従前の位置に戻してもらった。</p>	
--	---	---	--

VI. 監查報告書

監査報告書	被監査部門： 経営管理部門	監査番号：2016-01	
		監査年月日： 平成29年1月26日	
監査基準： 安全管理規程全般	監査範囲： 代表取締役社長・安全統括管理者		
監査チーム 監査リーダー：NASVA 田邊 真久 監査員：NASVA 末田 智久、アシナトランジット 宮口 充晴			
打合せ	開催日時	出席者	特記事項
オープニング ミーティング	内部監査スケジュール 参照	内部監査スケジュール 参照	

1. 監査の目的

アシナトランジット株式会社における安全管理規程第15条（輸送の安全に関する内部監査）に基づく内部監査の実施により、安全管理体制が適切に運用されているかを検証し、経営トップがマネジメントレビューを行うための必要な情報を提供する。

2. 監査全般の所見

宮口代表取締役社長は、各種会議体や現場での積極的な声掛けを通じ、「安全第一が事業の根幹。安全管理無くして事業経営は無い。」との考えを社内に発信し、また、社長自らが法令改正事項の周知を図る等、管理体制の構築・改善に主体的に関与している。

山口代表取締役専務（安全統括管理者）は、各種会議体において輸送の安全に関する基本方針をはじめ、いかに乗務員一人一人の意識に持たせるかを課題と捉え、現場における安全意識の向上に努め、目標を達成すべく施策に反映する等、中心となってその責務を果たしている。

この度の内部監査では、是正を要する不具合事項はありませんでした。しかししながら、輸送の安全性向上のためには、不断の取組みを行うことが不可欠であることから、各種取組みの実施のみならず、取組みの「効果把握」を行ったうえで、取組み自体を「見直し・改善」することが肝要です。

今後は、各種取組み個々の『PDCAサイクル』を意識した取組みを行っていただくことを期待します。

3. 重点監査事項の所見

I 優良事例

経営トップの責務

宮口代表取締役社長は、「安全第一が事業の根幹である。」ことを深く認識し、自ら率先して安全方針等の周知を行うなど、経営トップとしての責務を果たしていることが確認できました。

安全風土の確立には、経営トップである宮口社長の率先したリーダーシップが必要不可欠であることから、今後も継続した取り組みを期待します。

安全統括管理者の責務

山口代表取締役専務は、社長の考えの下、この安全最優先の意識を全社員に徹底するため、各種会議体やミーティングの場において、意識付けを行うための取り組みを実施していることが確認できました。

輸送の安全性を更に向上のためには経営トップのリーダーシップのみならず、取り組みを具現化する立場である安全統括管理者の役割が重要となります。

今後も引き続き、安全管理体制の構築・維持・改善に努めていただくことを期待します。

情報伝達・コミュニケーションの確保

事故の抑制とサービス向上を目的とし、年間を通して各種キャンペーンを行うとともに、お客様の安全輸送をPRするために、お客様に対して、運転ぶりやサービスに関するアンケートをお客様に対して実施する等、利用者へ向けた安全啓発の取り組みを行っていることが確認できました。

輸送の安全のためには、社内に向けた取り組みだけではなく、利用者に向けた啓発活動も有効な手段であることから、今後も利用者に向けた取り組みを継続して行っていただくことを期待します。

II 不具合事項

今回の内部監査で見出された不具合事項はありません。

4. 前回監査の改善事項

- 前回の監査で発見された不具合等に対する是正／改善事項は適切に実施されている。
- 前回の監査で発見された不具合等に対する是正／改善事項は適切に実施されていない。
 (適切に措置されていない場合は、今回の監査で把握した不具合等として取り扱う。)

5. 監査の結果

No.	監査日	監査部門	監査員名	優良事例	不具合等
1	平成29年1月26日	代表取締役社長	NASVA田邊真久 NASVA末田智久 アシナランジ ット宮口充晴	上記「3. 重点監査事項の所見 I 優良事例」のとおり	上記「3. 重点監査事項の所見 II 不具合事項」のとおり
2		安全統括管理者			
合 計				3項目	0項目

6. フォローアップ監査の予定

- 監査対象不具合等 : -
- 監 査 予 定 日 : -
- 監 査 対 象 部 署 : -

7. 是正／改善措置の確認及び評価並びにフォローアップ監査の結果

8. その他特記事項

承 認	確 認	作 成
		平成29年2月9日
代表取締役社長	安全統括管理者	監査リーダー